



CSR報告書 2016

Nippon Road Corporate Social Responsibility Report



道からはじまる街づくり



〒105-0004 東京都港区新橋1丁目6番5号 TEL.03-3571-4891
<http://www.nipponroad.co.jp/>



日本道路グループは「Fun to Share宣言」に参加しています。



この印刷物に使用している用紙は、森を元気にするための間伐と間伐材の有効活用に役立ちます。



日本道路株式会社

はじめに

当社は1929年の創業以来、一貫して道路づくりを通じて地域社会や地域経済に貢献してきました。2029年に迎える創業100周年を前に、今一度原点に戻り、道づくりに誠実に取り組んで参ります。

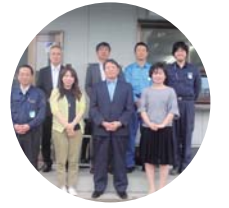
日本道路グループは、『CSR経営を推進することによって、社会から信頼され、存続を望まれる企業となるとともに、持続可能な社会づくりに貢献する』という経営理念を掲げ、すべてのステークホルダーから「高い信頼を得る企業」といわれる、人にやさしく社会にやさしく地球にやさしい企業をめざしています。

日本道路グループの2015年度のCSRへの取り組みをすべてのステークホルダーの方にご報告するために、このCSR報告書を作成しました。



CONTENTS

- 02 編集方針
- 03 トップメッセージ
- 05 特集(1) 私の現場とCSR
- 07 特集(2) 新しい次世代育成の活動 「森の探検隊」
- 09 日本道路のCSR
- 11 社長ミーティング
- 12 ■ 株主とともに
- 13 ■ 従業員とともに
- 15 ■ 取引先とともに
- 16 ■ 地球環境とともに
- 17 ■ 地域とともに
- 19 ■ 社会貢献活動
- [資料編]
- 23 会社概要
- 24 2016年度経営基本方針
- 25 コーポレートガバナンス
- 26 コンプライアンス
- 27 安全衛生マネジメント
- 28 品質マネジメント
- 29 環境関連資料



※表紙の子どもたちは『森の探検隊』参加者たち

編集方針

- 当社とそのグループのCSRの取り組みをわかりやすい情報に編集し、ステークホルダーに丁寧に伝えていくことを心がけました。
- 2015年度の活動実績を中心に、各ステークホルダーからの関心が高いと思われることを優先的に取り上げました。
- 編集にあたっては、経営企画部を中心にCSR委員会で掲載内容を決定し、社内の関連部署の協力を得て作成しました。

■対象期間

2015年4月～2016年3月
(ただし、当該期間外の取組みも一部報告しています。)

■報告対象範囲

当社とグループ会社の一部を報告しています。

■参照ガイドライン

GRIガイドラインG3.1
環境省「環境報告ガイドライン2012年版」

■報告形態

冊子
Web(ホームページ)

■発行時期

今回 2016年9月
前回 2015年9月
次回発行予定 2017年9月

■問い合わせ先

日本道路株式会社 経営企画部
〒105-0004 東京都港区新橋1-6-5
Tel: 03-3571-3626 Fax: 03-3289-4489

◆ご意見・ご感想をお聞かせください。

よりよい報告書を作っていくために、みなさまのご意見・ご感想をお聞かせください。
ホームページアドレスは、<http://www.nipponroad.co.jp/>

「創業の原点に戻り、
利益ある成長と
継続的な社会貢献を続けていきます」

2015年度の建設業を取り巻く環境は、デフレ脱却と景気回復をめざす政府主導の経済政策やオリンピック関連の再開発などにより、堅調に推移しました。しかしながら、首都圏と地方では需要動向に大きな格差が生じてきており、今後さらに地域間のバラつきは大きくなっていくことが予想されます。

また、今後も進む少子化・高齢化の影響で、老朽化する社会インフラの更新についても取組みが大きく変わってきます。国が策定した「新国土形成計画」や「新社会資本整備重点計画」に沿って社会インフラの整備や更新も行われていくこととなりますが、長期的な視点により、更新・長寿命化が計画的に実施されていくこととなります。今後は

地域の災害等のリスクを低減し、国民生活や社会経済活動の安全・安心を確保するための社会資本整備などが重点事項となっていくでしょう。また、民間事業者の技術・ノウハウを活用した官民連携の取組みにも期待されています。

当社としても社会経済状況の変化に応じ、効果的・効率的な社会資本整備に貢献していくために、昨年「新中期経営5ヶ年計画」を策定いたしました。本5ヶ年計画により、新規事業投資や研究開発を実施、労働環境や職場環境を整備し、より一層の人材の育成や施工力の強化を図ってまいります。

今一度創業の原点に戻り、本業の「工事事業に強い日本道路」を基盤に、利益ある成長と継続的な社会貢献を続けてまいります。

日本道路株式会社
代表取締役社長

山口 宣男



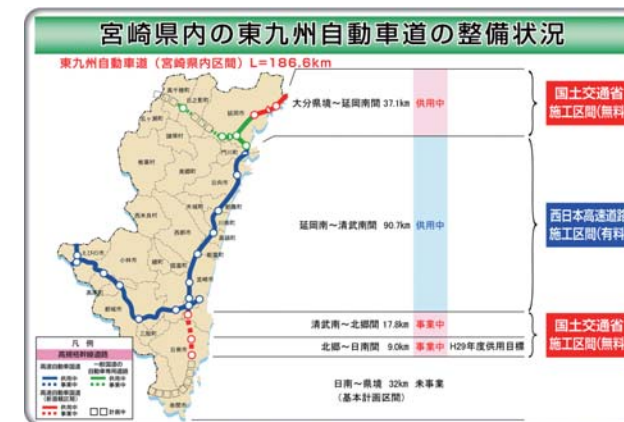
東九州自動車道は、北九州を起点に大分・宮崎を経て鹿児島市に至る延長 436km の高速自動車国道です。このうち清武～日南間については、宮崎市・日南市の 2 市を通過する延長約 28km の区間で現在も工事中です。

当社は昨年度、日南市北郷町を通過する区間のうち、3箇所のトンネル内の舗装工事を請け負いました。この路線が整備されることにより、高速ネットワークが形成され、宮崎県南部地域と北部地域が結ばれ、地域のさらなる発展や輸送効率の向上等、その効果が期待されています。



【工事概要】

工事名：東九州道（清武～北郷）寺山第二トンネル外舗装工事
工 期：平成27年3月18日～平成27年11月20日



地域への貢献活動

日南市立北郷中学校 校長 都成 量 様



北郷小中学校は、猪野八重溪谷をはじめとする常緑広葉樹の森と清流に囲まれ、近くには蜂之巣公園が広がり、学校の北西の道路は花立公園へと続く、豊かな自然に溢れた山間地の中心部に位置しています。さて、この度の日本道路株式会社との工事中は、児童生徒の安全な登下校確保のために学校付近のスピードダウンを徹底するなど十分な配慮をされて進めていただきましたことを感謝申し上げます。

さらに、児童生徒の安全意識の高揚を目指して、児童生徒全員への『啓発ステッカー』や校門入り口の横断歩道の横等に、『にちなんじゃさまの交通標識』を贈呈していただきました。児童生徒は、この『にちなんじゃさま』に見守られて、毎日楽しく安心して登校しております。

これからも工事が安全裡に順調に進み、立派な道路が完成することを切望しております。また貴社の益々のご発展を祈念しましてお礼の言葉と致します。



営業所長 原口 雅信 (現所属 宮崎営業所)



本活動は、工事車両と登下校の小学校児童との交通事故防止のための取り組みです。マスコミ取材もあり緊張しましたが児童、生徒、先生方に感謝され、地元住民の方たちにも喜んで頂きました。

現場代理人 松岡 寿 (現所属 宮崎営業所)



施工を行った北郷町は、日南市の北に位置する町で、現場の周辺は溪谷やキャンプ場、田畑などがある自然が豊かなところでした。そのため特に河川、田畑への油、濁水の流出をさせないよう機械の選定、仮設の排水計画に十分配慮して施工に取り組みました。

当現場は九州支店、日本道路全体でもはじめての土日祝日完全取得のモデル工事でした。現場も、書類も期日に間に合うよう調整が難しいところもありましたが、営業所や、協力会社の人員応援などの協力も得て、約8ヶ月の工事期間、100%達成することができました。

また、近隣の小中学校が、工事車両の通行路に面していたため、何かできないかを検討し、交通事故防止対策の一つとして、北郷小中学校へ安全用品の寄贈をしました。安全用品は現在も使用していただき、児童・生徒、先生方にも大変喜ばれ、発注者からも高評価が得られました。

工事期間中は地元との関係を常に考え、地元企業の採用や、地元の祭りへの参加など地域と一体となった取り組みができ、大変思い出に残る現場となりました。

監理技術者 溜衛 康伸 (現所属 東愛知出張所)



現在、東九州道（清武～北郷）の開通はまだですが、少しでも多くの道路工事に携わり、将来自分で道路を通行する事を目標に頑張りたいと思います。

現場担当者 国分 謙二 (現所属 熊本営業所)



生活道路を利用している生コン運搬であり地元の方の協力を貰い無事完了できました。今後橋の工事等が行われ開通する日が楽しみです。

工事統括 東 寛志 (現所属 鹿児島営業所)



土日連休のモデル工事であり、宮崎営業所一丸となり取り組みました。休日作業をしないことで地元住民の方たちにも喜ばれ、発注者にも高い評価を頂きました。

支店工事部長 長江 力 (現所属 中国支店)



本工事は、連続鉄筋コンクリート舗装が主であり、情報化施工を実施し、平坦性良く仕上がっています。開通後には、皆さん、平坦性を確認してみてください！

宮崎南工事事務所 松下 太一 (現所属 宮崎営業所)



トンネルの部分引渡し、資材運搬経路の制約等諸問題がありましたが、所内、支店、本社、発注者、地域住民の方々と一体となり、苦情もなく、無事故で完工できました。

(有) 中井建設 小川 謙一



地元北郷町の企業として、東九州道の工事に携わることができ感謝しています。清武～北郷間が開通し、工事箇所を通行できるのが楽しみです。

森の探検隊

～教育は子どもたちへの最高の贈りもの～

ともだちと森で遊ぼう
森の中で自然を探そう
森を歩いて見て触って 夏を感じよう
ときには目を閉じて 秋を聴こう
風の匂いをかいで 冬を探そう

特集 2

新しい次世代育成の活動

当社の最重要課題のひとつが「次世代を担う人材の育成」であるように、子どもたちの教育は、ご家庭や学校だけでなく社会全体が取り組んで行かなければならない重要なテーマであると考えています。

子どもたちにとって自然の中で多様な体験をすることは、とても大切なことです。この年齢に遊びの中で豊かな体験をすることは、その後のその子の人生が変わるようなかけがえのない経験になると考えています。

子どもたちが活動した広島県安芸太田町の井仁は、「日本の棚田百選」にも選ばれた本当に小さい、そして美しい里山です。

16名の子どもたちは、「夏」「秋」「冬」と違う季節の中でそれぞれの「季節を探す」活動を行いました。

[活動概要]

実施場所/広島県山県郡安芸太田町井仁

「棚田交流館」と周辺の森

実施日程/夏 8月23日(日) 夏を探そう

・秋 9月27日(日) 秋を探そう

・冬 11月15日(日) 冬を探そう

参加者/16名(幼稚園年長8名 小学2年生8名)

協力/井仁棚田交流館 廿日市市6幼稚園

活動実施/スポーツメディア(株) 東雲スイミングクラブ



「子ども性 (Childness)」を 発揮する場としての 「森の探検隊」活動

広島大学大学院教育学研究科
准教授 中坪 史典 様



一般に幼年期と呼ばれる3歳から8歳頃の子どもは、大人と違って、時間を忘れて夢中になることができる。ごちゃごちゃいわずにともかくやってみようとする。疑問に思ったことを探求しようとする。自然の中のいろいろな事物とかかわろうとする。草花、虫、いい臭い、変な臭い、知ってるもの、知らないもの、楽しいもの、不思議なもの、怖そうなもの、痛そうなもの…これらのものに子どもは積極的に働きかける。どんな反応が返ってくるのだろうか…と。そう、この時期の子どもの特性(これを「子ども性 : (Childness)」と呼びたい)を一言で表現すれば、まさにサイエンティスト(科学者)なのだ!

だったら大人は、この「子ども性 : (Childness)」を思う存分発揮できるような機会を与えようではないか。なぜなら、子どもが事物とかかわるとき、それは五感を研ぎ澄ましているときであり、没頭する中での経験が、その後の学びに繋がるのだから。こうした「子ども性 : (Childness)」は、幼年期において顕著に見られ、加年とともに徐々に見られなくなってしまうのだから。

「子ども性 : (Childness)」を発揮する格好の場として「森の探検隊」活動がある。森の中だと大人は、子どもに対して距離を置くことができる。するとどうだろう。子どもは驚くほど好奇心を働かせる。さまざまなものに出会い、五感が刺激され、心地よい感覚を味わったり、不快な感覚に直面したり、それを受け入れたり、乗り越えたり、避けたりしながら、色々な感情を体験する。子どもにとって「森の探検隊」活動は、人間形成の土台となる要素が数多く埋め込まれた、貴重な経験の宝庫なのだ。



●夏を探そう

初めて会う仲間との活動。少し緊張しながらも「あっ、これはトマト!」「いろんな形があるね!」「この赤いのがおいしいんじゃない?」「これはハートみたい!」「ちよつと痛い!」「いい匂いがする!」とどんどん出てくる発見。仲間と見つけた夏を創るときは、「ここはこんな草があったじゃん!」「道がこうなっとった!」「いい匂いの花はどんな色にしようか?」と見つけたモノが形になっていきました。



●秋を探そう

夏に見た棚田の景色があつと言う間に黄金色に変化して驚いた子どもたち。鎌を持ち、稲刈りをしながら「お米はできるまで大変じゃね!」と収穫の楽しさと大変さを感じた活動。秋の味覚のつまった昼食では「これは秋に食べれるものなんじゃ!」「栗も見つけたよね!」と季節を感じた。



●冬を探そう

井仁という場所を覚え、仲間との関わりが密になり、自分たちでどんどん進んで発見していった活動。焼きいもをしながら、「今日でもうみんなと会えんようになるね!」「また来て遊びたいよね!」と子どもたちから「じゃあこの歌を唄おう!」と全員で歌った「ピリーブ」。この活動で、仲間と活動する喜び、発見する喜び、感じたことを表現する喜び、といった目には見えない力を感じてくれたのかと、うれしくなりました。



森の探検隊 隊長 江田 理英

スポーツメディア 東雲スイミングクラブ

今の子どもたちは自分たちだけで公園で遊んだり、地域の人と関わったりする機会が減り、いつも時間に追われています。子どもたちに時間に制限されることなく、やってみたいこと、興味のあることを見つけ、それを思い切りやってみる、うまくいかなくても一人でやるのではなく、回りの友だちの考えを借りたり、力を借りながらやり遂げる。子ども自身が考え、表現する、といった目には見えない大切な「力」をつけるきっかけをプレゼントしていきたいと考えました。この活動を通じて、私自身も子どもが大人になったときにどうあってほしいか、ということを含め以上に考えるようになりました。私生活でも2歳の子どもを育てる親として、子どもとどう向き合い、どう関わっていけるのか、日々考え悩んでいます。

自分の子どもに限らず、勉強ができる、運動ができる、できるに越したことはないけれど、どんな社会でも、心と身体の健康があり、自分の想いを形にできる大人になってほしいと思います。そのために仲間との協力だったり、考えたり、最後まで諦めず取り組める力を身につけてほしいと思います。



参加者の保護者の声
(土井兄妹のお母さん)

何でも体験してほしいと思い今回の探検隊に参加させていただきました。外遊びで肌で感じる

風、風景、匂い、すべてが子どもたちの大切な思い出になった様子です。

野外で仲間と協力し、何かを作ったり笑ったり助け合ったり、貴重な体験だと思いました。

活動参加スタッフ

中国支店 梅野 一真

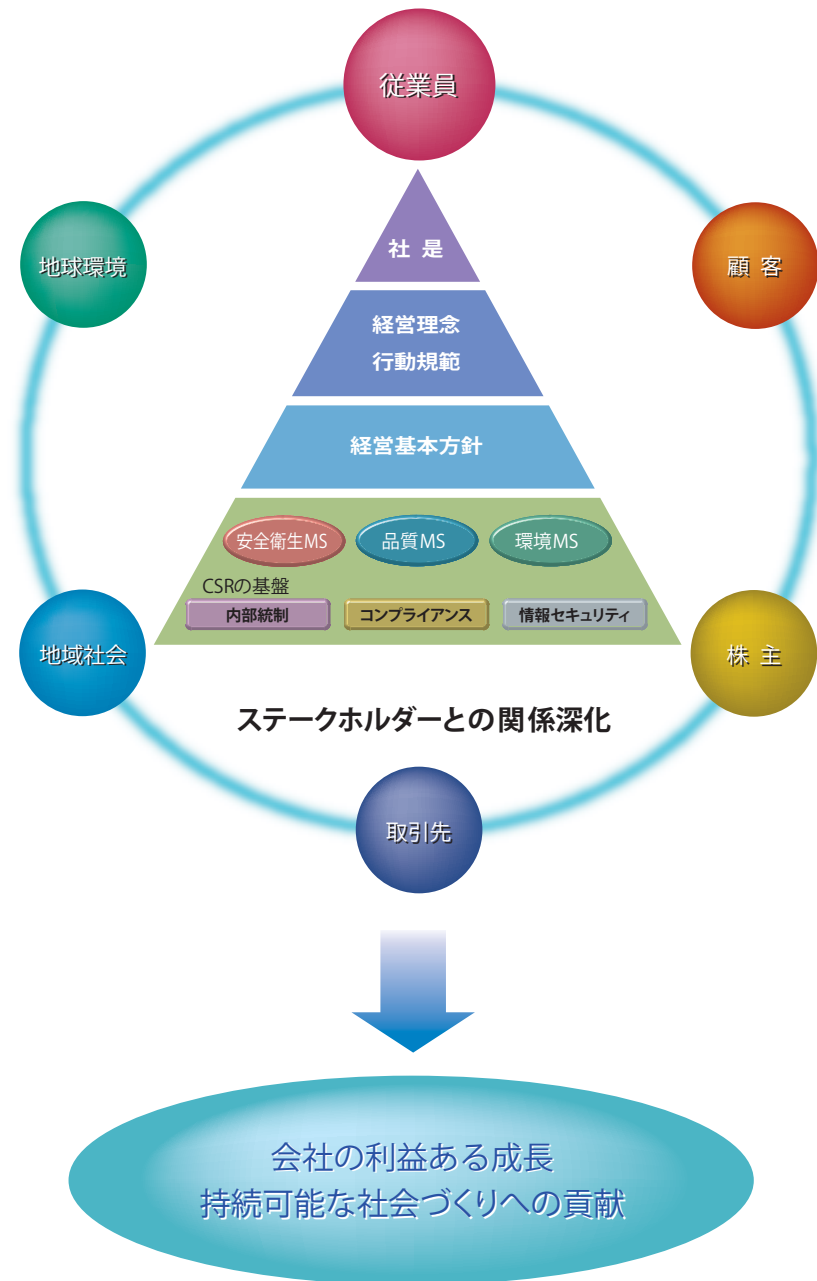


活動を重ねるごとに打ち解けることができ、積極的に話しかけてくれるようになりました。子どもたちと接することで、生き生きとしたパワーをもらい、自分の仕事の活力にもなりました。

「CSR経営を推進することによって、社会から信頼され、存続を望まれる企業となるとともに、持続可能な社会づくりに貢献していきます」

CSRを重視した経営を行うことによって競争力を高め、企業価値を向上させると考えています。

CSRとは経営理念を踏まえ、誠実に経営を進め、本業を通じて社会に貢献し、企業価値を高めていくプロセスであり、CSRは経営そのものであると考えています。



会社の利益ある成長と
持続可能な社会づくりへの貢献をめざします



経営理念
CSR経営を推進することによって、社会から信頼され、存続を望まれる企業になるとともに、持続可能な社会づくりに貢献する

CSR 基本理念
社会貢献活動をCSRの一環として位置づけ、「良き企業市民」として積極的に社会的課題の解決に取り組む

CSR 基本方針

- ・事業活動を通じて日本道路グループにふさわしい社会貢献活動を行う
- ・地域との積極的なかかわりを通して、地域社会との共生をめざす
- ・もてる経営資源を有効に活用し、次世代をにう人材の育成に努める
- ・持続可能な社会に向けて、地球環境を大切に活動を行う

社会貢献活動の重点分野

- ・地域社会との共生
- ・次世代育成
- ・地球環境保全

社長ミーティング

全国10支店で開催。中期経営計画や労働環境・職場環境の改善など経営課題の認識を共有する。



九州支店での社長ミーティング

当社グループでは、一昨年までの「CSRミーティング」に代わり山口社長が各支店に足を運び開催される「社長ミーティング」を実施しています。ミーティングの目的は、新中期経営5ヶ年計画や会社の課題などについて説明を行い、第一線の現場まで方向性を合わせるとともに、CSR経営について活発な意見交換を行うことです。

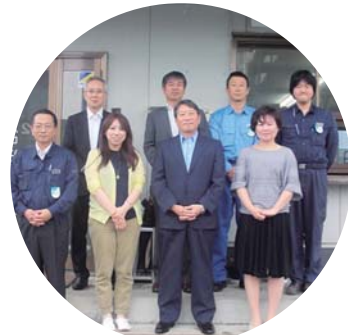
従業員ひとりひとりが会社に求められている課題を理解し、毎日の業務の中で今年度の取組みが末端まで浸透、促進できるようにしています。

今年も5月10日から6月9日まで全国10支店で実施され、多くの所属長、役職員、グループ会社社長が参加しました。会議後半にはフリーディスカッションも行われ、課題の具体的な解決について活発な議論が行われました。

今回は特に新中期経営5ヶ年計画の第一番に掲げられた「従業員を大切に作る会社」をめざすための労働環境・職場環境の改善、若手育成のための教育などについて、特に時間を掛けてミーティングが実施されました。多岐にわたる活発な議論を通じて経営課題の認識を共有し、それぞれの職員が抱える悩みの解決にも役立つなど貴重なミーティングとなりました。



中部支店での社長ミーティング



九州支店社長ミーティング時、火の国アスコンにて

九州支店
長崎営業所
平野 伸治



山口社長より直接お話を聞くことができ、これから会社が向かう方向性・コンプライアンスの厳守・人材育成と労働環境の改善・生産性の向上など、とても勉強になりました。

中部支店
静岡営業所
所長
野中 信彦



社長ミーティングでは、所属長のリーダーシップのもと所属員が強く関心をもつことが職場環境の改善に必要であることなど、多岐にわたる討議を通じて共通の課題を認識できました。若手社員の育成方法と仕事と生活のメリハリを付け、ワークライフバランスの取れた社員を大事にする会社をめざし、各部・各事業所長が厳しい現状に対し長期的展望に立って臨機応変な思考力と実行力を身に付ける。風通しの良い組織をつくるため、自分自身が熱意をもって職場の特質を生かした改善をさらに推し進める原動力になればと思います。

株主とともに

適時・適切な情報開示による信頼性の向上

2015年度は、当社からの取材誘致、資料配布、記者発表を中心とした取り組みを進めることによって、株主・投資家に向けた情報開示につながる広報活動を積極的に実施しました。

また、情報開示のため、ホームページを多く活用して、企業情報、保有技術情報、新聞掲載記事を迅速に発信するとともに、事業報告書や有価証券報告書などの投資判断に必要なIR情報の適時、適切な開示に努めています。

特にホームページについては、年間150回以上の情報更新をタイムリーに行い、掲載内容の充実を図っています。



安定配当の維持と株主価値向上

当社は財務体質の強化並びに安定的な経営基盤の確保、従業員の生活水準の安定・向上を図るとともに、株主の皆様に対しては、安定配当の維持と適正な利益還元を利益配分の基本方針としています。

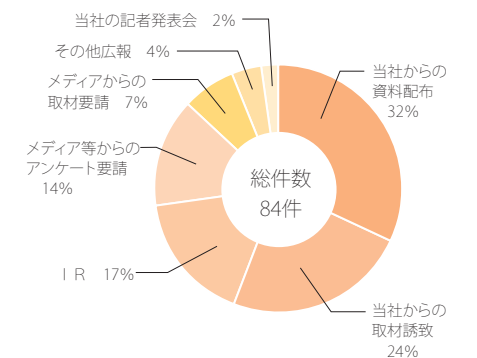
また、企業体質の強化、将来に向けた研究開発、設備投資を行うための内部留保の充実も図ってまいります。

当期の期末配当金につきましては、2016年5月13日開催の取締役会において、1株当たり17円と決議し、実施いたしました。また、次期の期末配当金につきましては、次期業績予想を勘案し、1株当たり10円を予定しております。

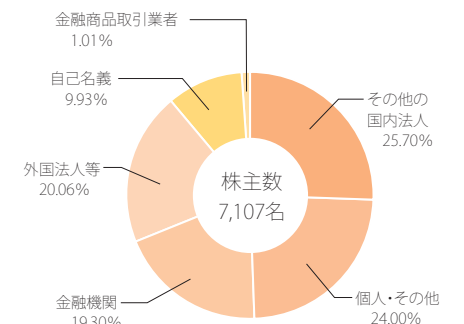
今後とも、安定的・継続的な経営成績をベースに連結配当性向30%を目途として配当を実施してまいります。



広報活動案件数



株主構成



従業員満足度調査

「従業員を大切にすることを会社の文化にしていきたい。」

昨年策定した「新中期経営5ヶ年計画」の第一番目には、「従業員を大切にすることを会社の文化にしていきたい。」が掲げられています。会社の成長には従業員の満足の向上が不可欠です。従業員の満足が向上、一人ひとりが高い意欲を持って明るく仕事に取り組めば、企業としての総合力や魅力も高まり、そのことが顧客満足やその増加につながり、会社の業績も向上していきます。

当社ではその好循環の起点となる従業員が「働きがいと生活の豊かさを実感できる会社」をめざし、2012年度から従業員満足度調査をグループ企業を含め、実施しています。

今回は第3回目となる調査でしたが、全体としての満足度69.4%と前2回と比較して向上し、各項目についても満足度が上昇する結果となりました。しかしながら、「ワークライフバランス」に関する項目、「機会均等」や「処遇について」の事項についての満足度は、まだ十分とはいえません。

今回調査結果と1,800件の自由意見も参考に分析を行い、優先順位をもって順次改善施策を継続的に実施していきます。

従業員満足度向上のための主な施策

- ・新しい人事制度の本格運用
- ・残業時間の削減・休日取得への総合的な対策
- ・単身赴任者に対する処遇改善
- ・健康管理体制の強化
- ・ダイバーシティ（女性・外国人・障がい者等多様性）の推進
- ・研修制度の再構築

私の会社の事業は、社会に役立っていると思う

89.7%

従業員の社会貢献度意識



労働環境の改善を推進

「従業員を大切にすることを会社の文化にしていきたい。」を実現させるため、「労働環境改善計画2015」を策定し、全役職員の労働時間の縮減・ワークライフバランスの確保・職場環境の改善に全社を挙げて取り組んでいます。

施策の具体例

- ・長時間労働者に対し、会社の指示により医師の面接指導を受診させるシステムの導入。
- ・現業部門勤務者を対象に、年度当初に年休を計画させ取得を義務付ける制度の実施。

各所属でのワークライフバランスの取り組み事例を、他所属での取り組みのヒントとなるよう、社内報に掲載して紹介しています。

(取り組み事例)

- ・休日取得計画をたて、予定表や管理表に明記し取得を推進する。
- ・「ノー残業デー」や現場からの「直帰デー」を設け、労働時間の短縮を図る。
- ・所員全員の話し合いにより交代で休日を取得する。
- ・レディースパトロールを行い、女性目線での作業環境の改善を図る。
- ・現場で書類作成が可能なデスクカーを導入し効率アップを図る。



全体会議で連休取得計画をたてる(大館アスコン)



「直帰デー」を設け「ノー残業デー」に(埼玉中央営業所)



全員の意見を聞いて休日取得(奈良中央アスコン)



レディースパトロールの実施(富山営業所)

職場環境の改善のため、必要な施設の設置や建替えを計画的に実施しています。



関西支店 京滋営業所(事務所・宿舍)



中国支店 倉敷出張所(事務所)



東京支店 城南営業所(事務所)

公正・透明な取引の推進

当社グループでは、調達活動においてすべての取引先に公平な機会を設け、公正に評価することで、相互協力、信頼関係を築き、共存共栄を図っています。

協力業者組織による安全衛生・環境への取り組み

当社グループと取引関係のある協力会社とは、安全衛生協議会の開催、現場への入場時安全衛生教育、安全パトロールなどを通じて安全衛生や環境に関する各種取り組みを行っています。

建設業法順守の徹底

最近の変化の大きい経営環境の中で、とりわけ元請・下請取引の適正化が従来にも増して強く求められています。関係法令や指針などを理解して順守するとともに、元請・下請取引の適正化に一層努める必要があります。

当社グループでは、下請取引の適正化に向けて、eラーニング教育を実施し、建設業法順守の徹底を図っています。

『安全の基本を絶対に守る』

北関東支店茨城地区安全推進大会

今年度も当社役員、安全協力会社など約180名が参加し、北関東支店茨城地区の安全大会が開催されました。

北関東支店四位支店長より、「現場における事故は、協力会社の皆様も含めた地道なパトロール活動の効果もあり減少しているの、これを維持して頂きたいと思えます。現場ではあれもこれもと多くを求めるとかえって事故の原因になることもあります。ポイントを絞り、『基本については絶対に守らせる!』ことを徹底させるようにお願いします。」と強い決意表明がありました。



北関東支店 四位支店長



(有)丸勝建設
専務取締役
篠原 光浩 様



皆さんを代表して「安全宣言」を述べることで、今まで以上に、安全に対する意識が高まりました。是非、事故ゼロを達成して安全で快適な職場を作ってまいります。

私の工場とCSR

環境への配慮

盛岡中央アスコンでは、2008年のプラント建替えにより「環境にやさしい合材製造」を実現するために、様々な改善を行っています。

2010年度には省エネ対策として、再生排ガス簡易脱臭装置に変更した事により、建替時の2008年度よりCO₂排出量を22%削減し、燃費消費量も-2.5 l/t低減しました。2015年の再生ドライヤの入替時には、製造担当者の経験を元に設計から開発を行い、日工をはじめ日本道路の多くの人の知恵を結集し、オリジナル再生ドライヤを作成しました。その結果、従来の再生ドライヤの付着が遅延し、従業員の作業軽減につながり、環境面においても2010年度と比べCO₂排出量が更に9%削減でき、燃料消費量も-0.8 l/t低減しました。

職場環境の改善

盛岡中央アスコンでは、連続休暇取得に加え振替休・代休取得の推進をしています。職員全員で話し合ったところ、そろそろ体のメンテナンスが必要な人は、平日、病院や検査など健康管理に使い、小さな子供がいる人は、平日の空いているときに家族サービスができ、学校の振替休みに合わせる事ができます。趣味を持っている人も平日ゆっくりと趣味を楽しむことができるため、土曜日出る代わりに平日の休みを取得する者が増えています。今後も、各自に合ったワークライフバランスを求め「従業員を大切にしたい会社」をめざします。

盛岡中央アスコンのロゴ

地元の方が親しみを持ち、愛される工場をめざし工場のオリジナルロゴマークを制作、いろいろな場面で使用しています。

地元学生の採用活動

盛岡工業高校の見学会を実施するなど、「次世代育成の活動」支援とともに、地元へのPR活動も積極的に実施しています。地元出身の職員がさまざまなルートで地元学生の採用活動を行い、工場見学の機会も設け、2015年から2年連続で専門学校卒業予定の学生を支店社員として入社させました。現在は、北日本技術センターで研修を行い、未来の製販部門を背負って立つため、日々教育しています。

地域への貢献と工場のPR AED設置

プラントの入り口県道455号線に向け、「AED設置しています」の看板を出し、緊急時どなたでも使用できるようにしています。



スタッフと打合せ (中央 石田所長)



盛岡中央アスコンの
ロゴマーク

日工(株) 東北支店
支店長 片岡 昭生



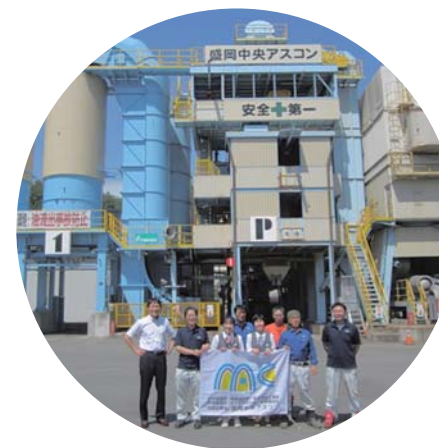
年々、厳しくなる環境状況・求められる省エネ、これらに応えるべく日々精進しております。今後とも、御客様に満足していただけるよう努力し、「Innovation」を前面に出して、常に新たなことへ挑戦し続けていきます。

「次世代育成」の活動 盛岡工業高校の工場見学

他社の活動に協賛し、盛岡工業高校3年生40名の工場見学会を実施しました。説明の資料作りから見学コース設定まで細かいところまで職員が協力し準備を行いました。先生・生徒より「工場見学はとても良かった。」と評価して頂きました。



盛岡工業高校の工場見学会



盛岡中央アスコン全景

(盛岡中央アスコン 所長 石田 良介)

地域の方の健康とともに

東雲デイサービスセンターは広島市の東雲スイミングクラブに併設され、2000年介護保険制度の開始とともにオープンしました。(運営は100%子会社のスポーツメディア㈱)

日本初のプールで水中運動ができるデイサービス施設として、毎週の登録利用者は、約180名で地域の高齢者の「行きがい」と「生きがい」作りの拠点施設となっています。



東雲デイサービスセンターを利用の皆さん

利用者の声
(竹下 剛様) 72歳



10年ほど前に脳出血を発症、右半身麻痺がありました。スタッフにばろっと「泳げたらいいのになあ。」と言ったら、あっさり「いいですよ。」と泳ぐ訓練がはじまりました。泳ぎの練習をはじめて普段の生活も杖がなくても、短い距離ならしっかり歩けるようになりました。家でも布団で横になることはなくなり、家族との会話も増えました。右手にも少しずつ力が入るようになり、茶碗も持てるようになりました。「まだまだこれからだけど、水泳選手になり、東京パラリンピックに出られたらいいなあ。」と思っています。



はたのリハビリ整形外科
院長 畑野 栄治様



当センターは介護保険制度創設前から腰痛スイミングなど健康増進と介護予防に着目した事業を展開している。歩行、筋力増強、体の柔軟性アップのためには水中の運動が効果的であることは良く知られている。水中訓練のための大浴槽を備えている病院もあるが、運営面と経営面からほとんどが利用されていない。しかし、当センターではプールを有効利用して要介護認定者を対象とした水中リハビリを行って、通所リハビリ(デイケア)や病院に負けない位の成果をおさめている。先日は脳卒中のため半身まひで歩行不可能な患者さんがクロールが出来るまでに回復した場面を見せて頂き驚きました。

東雲スイミングクラブに併設されている当センターでは、高齢者の方と子どもたちが積極的にふれ合う社会貢献活動を行っています。



楠那中学校
職場体験学習

小学生との夏休み
ふれ合いイベント



スタッフのコメント

はじめは水中歩行もうまくバランスが取れず、右半身の震えが止まらない状態でした。浮かぶ、足を動かすを繰り返し、「泳ぐためにこの歩き方をしてみましょう。」「手を動かしてみましょう。」と、積極的に声を掛け、水中で滑ることがあっても自立の力を信じてなるべく介助を少なくするように心掛けました。1回1回の練習でめきめき上達され、2ヶ月後に呼吸クロールで25m泳がれた時は、感動して涙が出るほどうれしかったです。

東北復興支援

東北地域の食文化・
食産業の復興に向けた
食材の社内販売

今年で第6回、第7回となる東北3県の食材の社内販売を行いました。グループ職員から合計360件、約270万円の購入となりました。

東北復興支援
社内販売売り上げ
約270万円

三陸浜寿司詰合せ	有限会社木村商店	岩手県下閉伊郡山田町
三陸おのや やわらか煮魚セット	小野食品株式会社	岩手県釜石市
高原育ちのフレッシュウインナー	株式会社岩手畜産流通センター	岩手県紫波郡紫波町
中村家 岩手丸	三陸海鮮料理 釜石 中村家	岩手県釜石市
三陸干物セット	有限会社木村商店	岩手県下閉伊郡山田町
味工芸 ハム詰め合わせ	株式会社岩手畜産流通センター	岩手県紫波郡紫波町
豆乳ゆばしゃぶ鍋	株式会社黒川食品	岩手県花巻市
喜久福生クリーム大福詰合せ	井ヶ田製茶株式会社	宮城県仙台市
高政 笹かまぼこ詰合せ	株式会社高政	宮城県牡鹿郡女川町
フロム蔵王プリン大福8個セット	山田乳業株式会社	宮城県白石市
無着色明太子	株式会社万石の粒	宮城県牡鹿郡女川町
石巻漬焼き(牡蠣せかま、サーモンバーグ)詰合せセット	株式会社遠藤商店	宮城県石巻市
金のさんま・有馬煮金のさんま	株式会社齊吉商店	宮城県気仙沼市
みやぎ蔵王 わた雪プリンギフト 8個セット	株式会社P&Cファクトリー	宮城県仙台市
福島県産 桃6個(あかつき)	山形青果センター株式会社	山形県長井市
福島県産あんぱもち	山形青果センター株式会社	山形県長井市
めひかり塩チョコ&紅玉林檜チョコセット	株式会社いわきチョコレート	福島県いわき市
阿武隈の紅葉漬	福島紅葉漬株式会社	福島県伊達市



第3回 千年希望の丘
植樹祭2015
(岩沼市主催)

東日本大震災津波被害で発生したがれきを利用し、避難丘と津波の力を減衰させる園路に20種類の苗木7万本を約5,000人で植樹し、仙台南アスコンの職員も参加しました。



活動当時 仙台南アスコン 所長
現所属
本社製販部
阿部 良次



仙台南アスコンも津波で被災しました。多くの人々の援助を受けて再開し、復旧復興事業の一部を担ってきました。植樹も今年で3回目。苗木は大きく育って、千年先の岩沼市の安全安心のために働いてくれるでしょう。

中部支店
静岡営業所
“餅つき大会”




地域住民とのコミュニケーション活動として餅つき大会を実施しました。イベント開催の動機は、繁忙期には計画通り休めないことも多いので、逆に餅つき大会を目標に職員一同力を合わせ、工程順守と地域とのコミュニケーションを両立させてみようということでした。

関西支店
大阪マラソン
“クリーンUP作戦”



平成27年度10月20日(火) 関西支店近辺にて支店内勤者による清掃活動を行いました。
当活動は大阪マラソンの開催に伴い、大阪へ来阪される方を「きれいなまち」で迎えるという大阪市の趣旨に賛同し、参加した活動でした。


中部支店
静岡営業所
太田 恵



約40名の近隣の方に参加いただき、とても喜んでいただきました。「やれば、できる!」チーム一丸、工程もイベントも予定通り、職員の結束も高まり、みんな大満足のイベントになりました。



活動当時 関西支店
現所属 東北支店
山形営業所
樋口 祐希



関西支店では大阪マラソン開催へ向け、関西人ならではの「やる気」と「元気」で全力で清掃活動に参加するのが毎年の恒例行事です。市をあげてのイベントが成功で終わるよう、今後も毎年活動していく予定です。

社会貢献活動
375件
2015年度活動回数

今年度も各支店・営業所で
多彩な社会貢献活動が行われました。

北信越支店
新潟合材センター
稲月 久雄

雨が降り始めた、少し寒い初夏の早朝である。歩き始めると、さわやかな汗がにじんできた。紫陽花は雨が似合っている。紫陽花の横にあった子どもの絵、豊作を願っているのであろうか稲刈りをしている。とても印象的だった。




「水田水を考える会」(新潟市水田地区)の人たちが5年がかりで農業排水路沿いに植えた320株のあじさい。毎年行われるウォーキングイベントに参加し、あらためて自然の大切さについて考えながら雨の中を歩きました。

四国支店
梶原工事事務所
梶原町森林ボランティア
協働の森づくり事業



高知県梶原町宮野々九十九曲峠町有林(矢崎の森)にて、天然萌芽林の整理伐採作業に参加しました。

四国支店
梶原工事事務所
山中 康代



2015年度も恒例になった梶原町森林会議主催の森林ボランティアが実施され、四国支店管内社員8名で参加しました。整理伐採作業を体験し森林や清流の大切さを感じ、四万十川の清らかな水を育む森づくりが着実に進んでいることを実感しました。



次世代育成の活動

中学生
職場体験学習



出雲中学のみなさんと今回の研修スタッフ

技術研究所、グループ子会社の(株)レインボー・コンサルタント、環境緑化(株)で合同開催しました。学習については、各社が日ごとに担当しました。

大田区立出雲中学校 4名 2015年7月7日～9日
1日目/技術研究所 AS配合試験など
2日目/レインボー・コンサルタント 測定・調査など
3日目/環境緑化 公園遊具の点検など

これまで毎年学校からの要請に応え、継続的に中学生の職場体験、見学を受け入れています。

中学生には、道路会社の仕事の内容や社会貢献について社員の講義や見学を通して、働くことの大切さ、大変さ、喜びなどを知ってもらうようにしています。

日本道路
技術研究所

[試験を体験]



レインボー・
コンサルタント

[測定器具を体験]



環境緑化

[公園施設遊具の点検を体験]



子ども
ゴルフ体験

スポーツメディア(株) (クリアゴルフフィールド)



神津 信一
インストラクター



施設の子どもたちに色々な経験をさせてあげたい。ゴルフがひとつの経験になれば、子どもたちにはゴルフを学ぶというよりは、遊びながらゴルフに触れ合ってもらい、将来やりたいと思ってもらえる子が出てくれればいい。

神愛ホーム施設長
市川 広美 様

今年も続けて頂き子どもたちも大喜びです。習い事を通じて技術を習得する経験は子どもたちの自信になる。毎年ゴルフを練習する機会を頂きとても感謝しています。

クリアゴルフフィールドで20年にわたりゴルフを指導している神津インストラクターは、15年前から児童養護施設との交流が始まり、ゴルフ以外でも毎年クリスマスにお菓子を届けたりしている。

毎年8月に県内の児童養護施設神愛ホームの子どもたちを招待し、2015年は、14名の子どもたちがゴルフ体験を行いました。

手作りコースターの
販売協力

エヌディーリース・システム(株)



2015年エヌディーリース・システムが創業30周年を迎えるにあたり、何か今後社会貢献が続けられるものを記念品としようと考えました。そこで自閉症や知的障がいのある方とその家族を支援している「社会福祉法人青葉会生活工房こだま」の利用者の皆様がプリントや包装作業をしている朴の木手作りコースターを選び、得意先や社員に配布しました。

社会福祉法人青葉会
理事長 松井 宏昭 様
(社会福祉士 農学博士)

「こだま」は木壺や木魂。一人ひとりのこだまを大切に、自閉症の人が心を込めて木工に取り組み、販売しています。



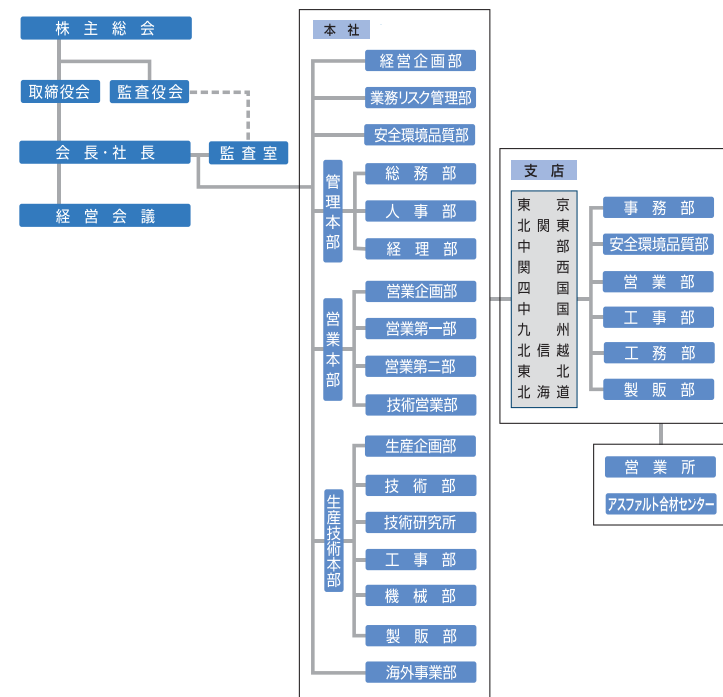
生活工房こだまの皆さんの作業風景

その後展示会のノベルティ、日本道路のPRグッズとして利用させていただいていますが、とても好評です。今後も利用範囲を広げ、末永く販売協力を続けていくつもりです。

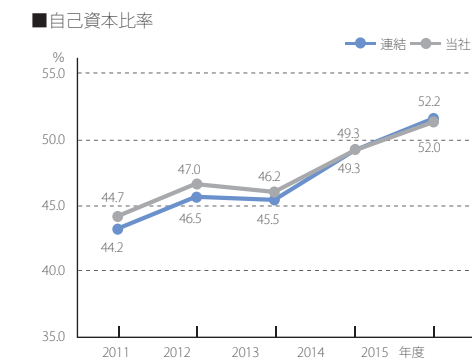
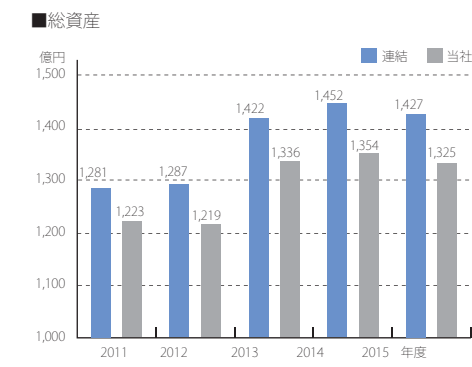
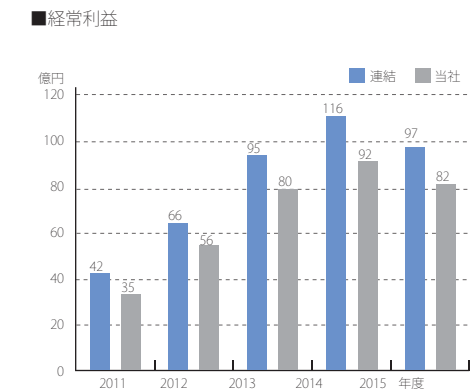
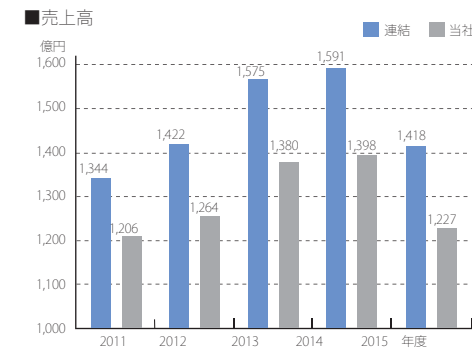
グループ会社の社会貢献活動

会社名 日本道路株式会社
 設立年月日 1929年(昭和4年)3月10日
 資本金 122億9,026万円
 従業員数 1,331名
 上場市場 東京証券取引所 市場第1部
 本社所在地 東京都港区新橋1-6-5
 営業拠点 全国10支店、3統括営業所、50営業所、
 36出張所、31工事事務所、90製造販売拠点
 海外拠点 タイ、マレーシア、ミャンマー
 事業内容 道路建設及び舗装工事
 一般土木工事 一般建築工事 環境整備工事
 スポーツ・レジャー施設工事
 アスファルト合材・乳剤の製造販売
 産業廃棄物の処理並びに再生製品の販売
 建設コンサルタント
 賃貸事業 不動産取引業務
 建築設計・監理

機構図



業績主要データ



2016年度経営基本方針

2016年度 経営基本方針

中長期的視点に立った投資を行い、市場環境の変化に耐え得る組織を目指す

1. 従業員を大切にすることを旨とする
2. CSRを経営の根幹に据え経営品質の向上を目指す
3. 安全第一主義を徹底する
4. 環境にやさしい社会の実現に寄与する

安全衛生MS

安全衛生方針

人命尊重を最優先した安全第一主義を徹底し、労働安全衛生マネジメントシステムを継続的に改善、「安全文化」を定着させる

行動指針

1. 拠点毎に全員で声をかけ合って、安全意識を共有する
2. 三現主義(現場・現物・現実を診る)を徹底させ、死亡・重篤災害ゼロ/公衆災害ゼロを目指す
3. 職員と協力業者との連携をより深め、日常の安全衛生活動を実践する
4. メンタルヘルス対策に取組み健康快適職場を形成し、業務上の疾病を予防する

2016年度重点実施事項

1. 職員・協力業者の教育・指導、安全施工サイクルの確実な実行による労働災害事故の撲滅
2. 地下埋・架空線等の事前確認及び周知・指導の徹底による第三者損傷事故の撲滅
3. セーフティコール/指差の併用実施による交通事故の撲滅(運転中のスマホ厳禁)

品質MS

品質方針

全てのステークホルダーから高い信頼を得る企業として持続的な発展を目指すよう品質マネジメントシステムを実行し、継続的に改善する

行動指針

1. 労働環境・職場環境の改善・向上に向け徹底して取り組む
2. 法令遵守の重要性を再認識し、組織の隅々まで徹底する体制を築き、ステークホルダーからの信頼を取り戻す
3. 顧客ニーズを先取りし、提案営業を推進するとともに、営業のプロセス管理を通して質の高い受注を拡大する
4. 個別・連結利益を確保することにより、社会から信頼され、継続的に成長する企業を目指す
5. P D C Aサイクルを回すことにより、顧客の信頼と満足を得られる製品を提供し、社会に貢献する
6. 常に意識改革と自己研鑽に努め、技術と品質の向上並びに業務の効率化を図る

2016年度重点実施事項

1. 全社重点実施事項
新中期経営5ヶ年計画に据えた成長戦略の具体化に向けた取り組みを一丸となって進める
2. 工事業戦略
[営業] 顧客と差別し、他社と差別化する新たな営業展開を図る
地域特性に対応した民間受注の拡大
[工事] 施工体制の強化による収益力のアップ
3. 製販事業戦略
人材育成と製販力強化
4. グループ事業戦略
[海外事業] 人材の育成とローカル化
[建設関連会社] 成長戦略の実行
[国内直轄子会社] 成長戦略の実行

環境MS

環境方針

各部門において、環境にやさしい社会の実現に寄与するよう環境マネジメントシステムを実行し、継続的に改善する

行動指針

1. 環境情報を先取りし、5Sの徹底に努め、汚染予防、建設副産物の適正処理、地球温暖化の防止を推進する
2. 環境関連法令および社内規程を順守した日常の環境活動を実践する
3. 環境保全に関する技術開発・拡販を推進する
4. 環境教育・啓蒙活動を実施し、持続可能社会の一翼をになう地球環境保全に努め、環境情報を社会に発信する

2016年度重点実施事項

1. 建設副産物/汚濁水/粉塵等の適正処理および資源の有効活用
2. 省エネ推進/環境技術工法によるCO2排出量削減および環境負荷低減工法の拡大
3. 環境マネジメントシステムの適切な運用と職員教育および協力業者の教育・指導

新中期経営5ヶ年計画

新中期経営5ヶ年計画の目指すもの

1. 『従業員を大切にすること』を目指します
2. 道路建設を通じて社会に貢献します
3. コーポレートガバナンスを充実させます

7つの成長戦略

1. 工事業戦略
2. 製販事業戦略
3. 海外事業戦略
4. グループ事業戦略
5. 新規事業戦略
6. IT(情報技術)投資戦略
7. 組織・人材開発投資戦略

2019年度 経営数値目標・経営指標目標(連結)

総売上高	1,760 億円
経常利益	110 億円
当期純利益	70 億円
ROE	8.0%
配当性向	30.0%

コーポレートガバナンスの強化

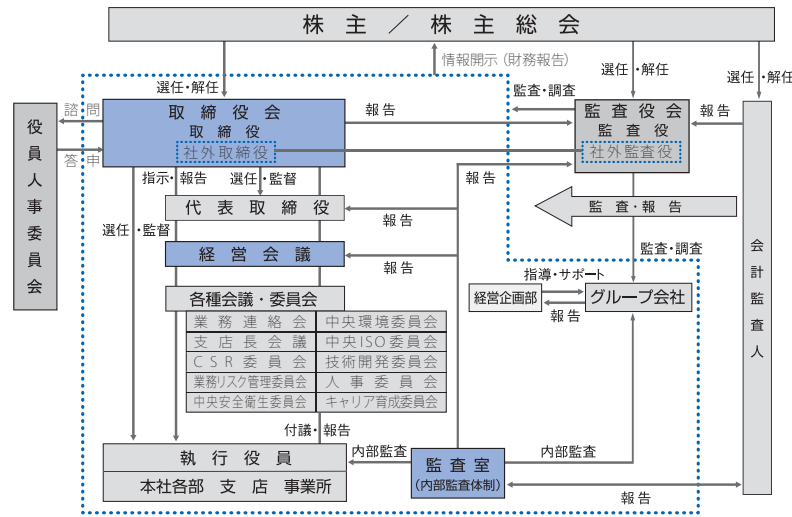
取締役会は、会社の業務の執行方針を審議・決定し、法令の定める事項、その他重要事項についての決議・承認を行うとともに、取締役の業務の執行状況を監督しています。特に取締役会の活性化に関しては、業務執行責任と会社全体の経営責任の分離、強化を推進し、会社経営上の重要事項の決定・執行・監督を行う取締役を少数に限定し、経営の健全性と効率性を高めています。また、取締役会の経営監視機能の客観性と中立性を高めるため社外取締役2名を選任しています。

経営会議は、会社の業務の執行方針を協議し、社長を補佐するとともに、取締役会から付託された事項に応えるため設置し、業務執行上の重要事項の審議並びに報告を行っています。

監査役会は、監査役4名（社内1名、社外3名）で構成されています。監査役は、取締役会その他重要な会議に出席して意見を述べ、関係書類を閲覧し、業務及び財産の状況調査等を通じて取締役の職務遂行を監査しています。

社外取締役2名と社外監査役2名は、東京証券取引所に独立役員として届け出ております。

コーポレート・ガバナンス体制



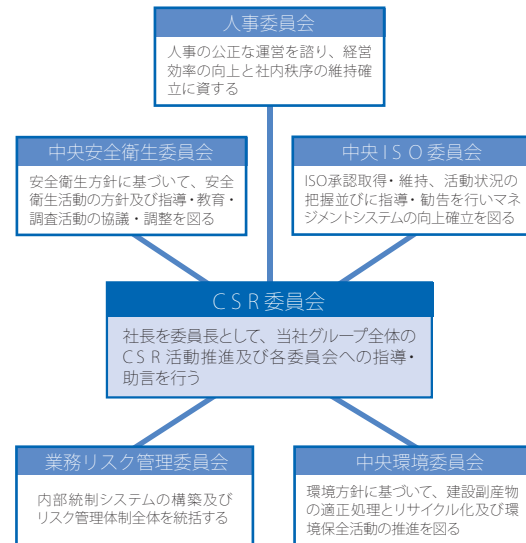
CSR推進体制

CSRに関する取り組みをグループ全体で推進していくため、「CSR委員会」を設け、CSRの取り組み方針、アクションプラン、CSR報告書について審議するとともに、各委員会への指導・助言を行っています。

また、「業務リスク管理委員会」を設置して、CSRの基盤である内部統制、コンプライアンス、情報セキュリティに関し、それぞれの基本方針・指針などに基づいたCSRを活動推進しています。

さらに、安全衛生、品質、環境についても、それぞれ委員会を設けて、方針に基づく活動を行っています。

CSR推進体制



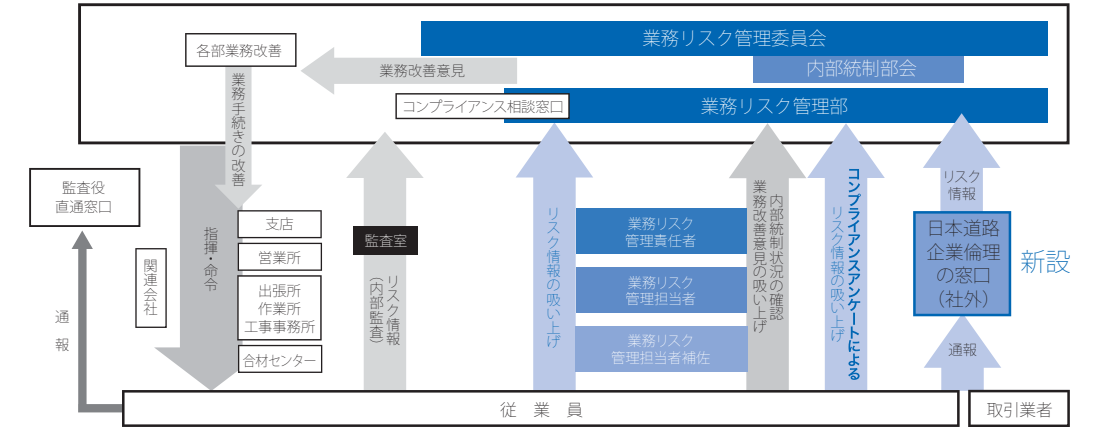
コンプライアンスの徹底

コンプライアンス基本理念

- ・法の順守が絶対条件であることを深く認識し、社会規範・公序良俗に反しないという強い意識をもって行動する。
- ・自然環境保全の重要性を認識して行動する。
- ・あらゆる人々の人権・人格を尊重する。
- ・コンプライアンス体制の整備に全社で取り組む。

社内の管理体制

全社の業務リスクを管理し、新たなラインとして業務リスク管理委員会をはじめとする業務リスク管理ラインを設け、当社のリスク管理の抜本的向上を図る一体的なシステムとしています。



[各担当者の役割と業務]

- | 業務リスク管理担当者 | 業務リスク管理責任者 | 業務リスク管理部 |
|--|--|---|
| <ul style="list-style-type: none"> ・風通しの良い職場づくり ・営業所(出張所)業務が社内ルールに基づいて行われているかの点検 ・業務リスクの予防・発見・対処 ・業務リスク管理担当者補佐の指導・支援 ・内部統制システムの維持 | <ul style="list-style-type: none"> ・業務リスクの予防・発見・対処 ・業務リスク管理担当者の指導・支援 ・支店自主点検の計画立案及び実施、フォローアップ ・内部統制システムの管理 | <ul style="list-style-type: none"> ・業務点検 ・コンプライアンス教育 ・社内外通報制度の運用 ・アンケートの実施 ・内部統制システムの整備・運用 |

お詫び

当社は、2015年1月に公正取引委員会の犯則調査を受け、東日本高速道路株式会社東北支社が発注する東日本大震災に係る舗装災害復旧工事の入札に関し、独占禁止法違反の容疑により、2016年2月29日に東京地方検察庁から起訴され、同年3月に東日本高速道路株式会社はじめその他の発注機関より指名停止措置を受けました。

また、2016年3月24日には東日本高速道路株式会社関東支社が発注する東日本大震災に係る舗装災害復旧工事の入札に関して、2016年8月2日には東京都等が発注する舗装工事の入札に関して、いずれも独占禁止法違反の疑いで公正取引委員会の立ち入り検査を受けました。

当社といたしましては、2015年1月に公正取引委員会による調査を受けてからこれまでの間、関係当局による捜査等に全面的に協力するとともに、独占禁止法順守に係わる社内調査、社内体制の見直し、教育研修活動に努めてまいりました。また、2016年4月26日開催の取締役会におきまして、談合と決別することを決議しました。今後につきましても、さらに独占禁止法その他の関係法令を順守した事業活動の推進に向け、全社をあげて取り組んでまいります。

安全衛生マネジメントシステムの推進

当社グループでは、建設業労働安全衛生マネジメントシステム (COHSMS) の適切な運用を図っています。

2015年度は死亡、重篤災害ゼロ、事故・災害件数は、23件(前期比53%)と前期に比べ大幅に減少しました。内訳では、労働災害が15件(同79%)、第三者損傷が2件(同15%)、交通事故が4件(同44%)、その他2件(同100%)となり、全体的に件数が減少しました。

要因分析すると、高齢者の身体機能低下、慣れ・過信からの安全意識低下、経験の浅い者による危険見逃し、基本ルール違反による災害、重機との接触による事故が発生しました。第三者損傷においては、過年度の教訓が活かされず、地下埋設物、架空線損傷事故が発生しました。

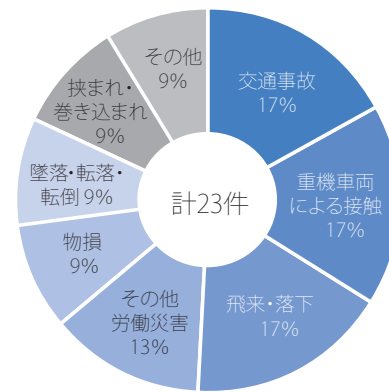
2016年度の安全衛生方針は、『人命尊重を最優先した安全第一主義を徹底し、労働安全衛生マネジメントシステムを継続的に改善、「安全文化」を定着させる』としています。

全員で声を掛け合って安全意識を共有するとともに、三現主義(現場・現物・現実を診る)を徹底させ、事故・災害の防止に努めてまいります。

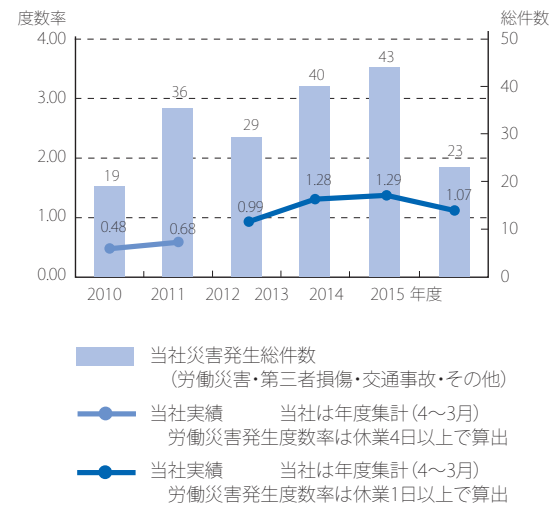
2016年度重点実施事項

1. 職員、協力業者の教育・指導、安全施工サイクルの確実な実行による労働災害事故の撲滅
2. 地下埋・架空線等の事前確認及び周知・指導の徹底による第三者損傷事故の撲滅
3. セーフティコール/指差の併用実施による交通事故の撲滅(運転中のスマホ厳禁)

2015年度事故・災害発生原因の内訳



当社の事故災害発生総件数および労働災害発生度率の推移



安全衛生・環境パトロール

毎年、「全国安全週間」「環境月間」にあわせ、本社役員による安全衛生・環境パトロールを行っています。経営トップ自ら事業所、工事現場、合材プラントのパトロールを行い、安全衛生・環境意識の高揚と事故・災害防止の重要性について、さらに認識を高めるようにしています。



東京支店 山口社長現場ミーティング



中国支店広島中央合材 久松副社長現場パトロール

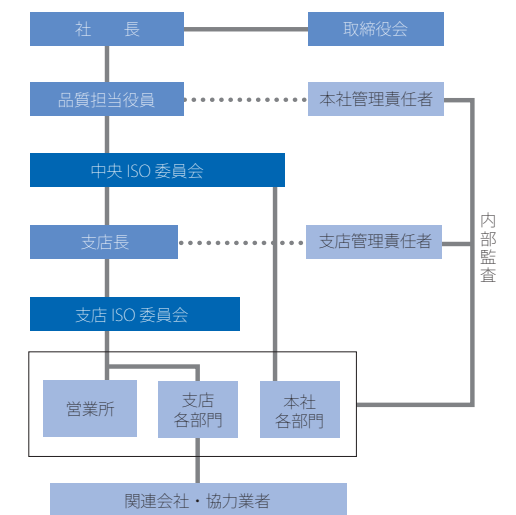
品質マネジメントシステムの推進

品質マネジメントシステムの外部審査機関による品質/環境マネジメントシステム (ISO9001/ISO14001) の複合審査が2016年7月4日~8日に実施され8月に認証維持となりました。

指摘事項は、改善指摘 A0件(従来のX=重大)、改善指摘 B0件(従来のY及びZ=軽微及び修正)、観察事項1件、充実点4件と良好な結果となりました。観察事項については、監査及び巡回パトロール時に改善を確認していきます。

なお、2016年4月より業務の簡素化、効率化のため、本社製販部門を含めアスファルト合材の設計および製造部門を認証範囲から除外しました。

品質マネジメント体系図



※2016年4月より、製販部門は除く

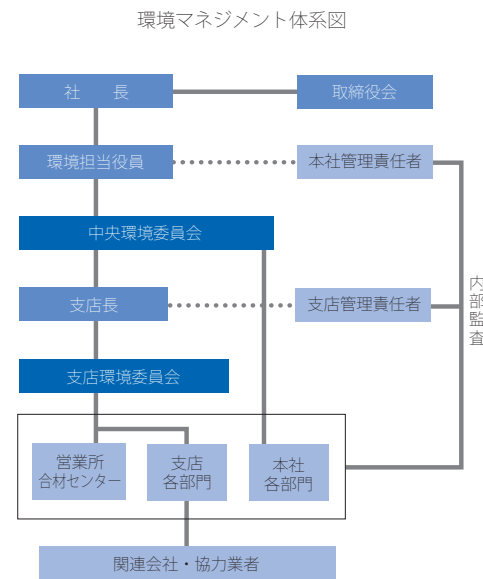
環境マネジメントシステム

環境マネジメントシステムの外部審査機関による品質/環境マネジメントシステム(ISO9001/ISO14001)の複合審査は、前頁に記載したとおり2016年7月4日~8日に実施されました。

指摘事項は、改善指摘A0件(従来のX=重大)、改善指摘B0件(従来のY及びZ=軽微及び修正)、観察事項0件、充実点5件と良好な結果となりました。

今後も継続して監査及び巡回パトロール時に状況を確認していきます。

2015年度に各支店で実施した内部環境監査の事業所あたりの平均指摘件数は、前年度とほぼ横ばいとなりました。(0.4→0.5)システムは良好に維持されています。指摘が多かったのは、「法的及びその他の要求事項」、「緊急事態への対応」等となっており、環境法令関連の教育・訓練など、引き続き今後も指導を継続してまいります。



環境会計

●2015年度環境保全コスト

環境保全コスト区分		主な取り組みの内容	2015年度	2014年度
大項目	中項目			
1. 事業エリア内コスト	①公害防止コスト	大気汚染防止、水質汚染防止、土壌汚染防止、騒音・振動・悪臭防止等	375,753	468,174
	②地球環境保全コスト	温室効果ガス発生抑制、中温化合材の製造、低公害車採用等	49,288	107,666
	③資源循環コスト	節水・雨水利用等のコスト、建設副産物の適正処理対策	2152,143	2515,203
2. 上・下流コスト	①グリーン購入に伴う通常購入との差額コスト等	グリーン購入費用、環境配慮型設計提案に係る費用	13,004	14,594
3. 管理活動コスト	①環境マネジメントシステムの整備・運用のためのコスト	ISO14001の登録・審査費用、運用費、環境関連部門の人件費他	58,541	51,288
	②環境情報の開示及び環境広告のためのコスト	展示会、環境技術発表会費用、CSR報告書発行費用等	1,205	830
	③環境負荷監視のためのコスト	公害防止に関する測定費用	8,485	9,983
	④従業員への環境教育等のためのコスト	環境に関する教育・講習等参加、資格取得費用	6,151	9,897
	⑤自然保護、緑化、美化、景観保護等のコスト	作業所周辺の美化、清掃活動、イメージアップデザイン	65,248	77,594
4. 研究開発コスト	①環境関連の研究開発費他	省エネ技術・長寿命化等に関する研究開発費他	72,581	70,865
5. 社会活動コスト	①環境保全を行う団体等への寄付	NGO、環境関連団体への協賛金、寄付	1,030	1,066
	②地域住民等との社会的取り組み他	地域での環境教育協力費他	6,847	8,398
6. 環境損傷対応コスト	①環境の損傷に対応する引当金繰入額他	マニフェスト伝票購入費(基金分)、土壌汚染・自然破壊等の修復費	3,012	12,142
環境保全コスト計			2813,287	3347,700

対象期間：2015年4月~2016年3月

集計範囲：当社~国内の営業所・合材センター・工事現場(元請工事で1億円以上)・技術研究所・技術部

保全コストの算出根拠：全事業所からの全数調査とサンプリング調査の結果を全工事売上上に換算することにより算出(2014年度分も同様に修正しました。)

2015年度環境目標達成状況と2016年度の目標

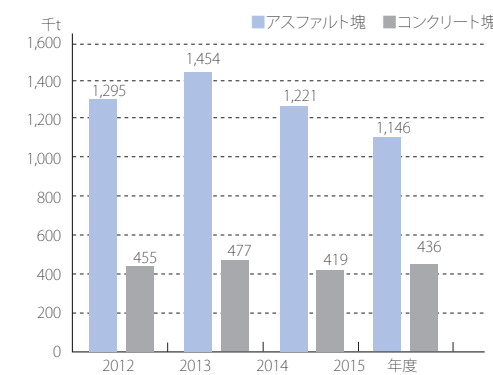
区分	環境目的	対象部門	目標	2015年度			2016年度目標値
				目標値	実績値	評価	
低炭素社会の構築	CO2排出量の削減	製販	燃料使用量削減	10~12年度平均値維持	+1.0%	▲	13~15年度平均の98%
		事務	全事業所電力量削減	10~12年度平均の97%	-15.2%	▲▲	13~15年度平均の99%
		営業	環境関連工法受注件数拡大	380件	468件	▲▲▲	260件
循環型社会の構築	3Rの推進	製販	再生骨材混入率アップ	12年度以上維持	+7.1%アップ	▲▲▲	12年度以上維持
			混合廃棄物の削減	10~12年度平均値以内	+210%	▲	13~15年度平均99%以内
		施工	混合廃棄物の削減	10~12年度の平均85%以内	+4.0%	▲	13~15年度平均99%以内
			事務	全社エコ製品占有率アップ	88.6%以上	99.2%	▲▲

自己評価(達成度) 高▲▲▲ 低▲

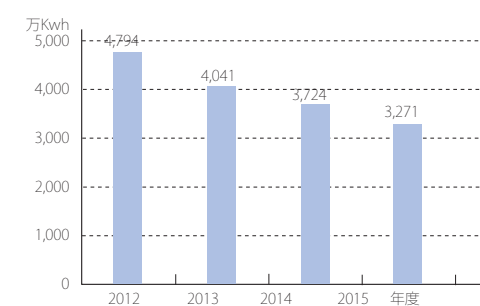
INPUT DATA

主要なエネルギー使用量	製販部門	施工部門	事務部門
	合材・再生材製造	工事施工	オフィス活動
重油	18,950kℓ	—	—
灯油	47kℓ	3kℓ	132.9kℓ
軽油	1,618kℓ	1,541kℓ	402.6kℓ

中間処理施設での建設廃材の受入数量の推移



電力使用量の推移(合材プラント)

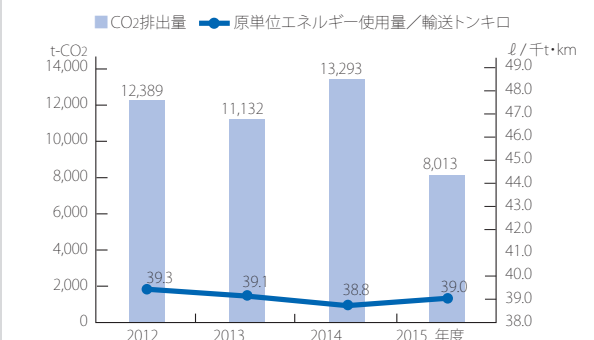


OUTPUT DATA

CO2排出量	製販部門	施工部門	事務部門
	合材・再生材製造	工事施工*	オフィス活動
	83千t	50千t	4.5千t

*工事施工(施工高1億円あたりの使用量から算出) 日建連による施工分野でのCO2排出量基準による。

輸送に係るCO2排出量と原単位の推移



建設廃棄物総量の推移

